

令和2年度第1回ヤクシカWG合同会議における主な意見・助言等に対する今後の取組方向

課題	主な意見・助言等	関係機関	回答等
<p>議事－1 ヤクシカの生息状況等について</p>	<p>(1)屋久島町の鳥獣被害の実態、ヤクシカの生息・捕獲状況、森林被害状況</p> <p>特になし。</p>		
<p>議事－2 令和元(平成31)年度及び令和2年度の取組について</p>	<p>(1)屋久島町における鳥獣被害防止対策</p> <p>①猟友会の年齢構成について、今は70歳以上の方が活躍されているが、現時点だけでなく5年後、10年後も見据えて年齢構成を認識すべきである。 ②捕獲個体の処理が「埋設」となっている中に、自家消費されている部分も含まれていると思われるため、実態を則した表現に工夫してほしい。実態がわからなければ、とりあえずは「搬入」と「それ以外」でもよいのではないか。 ③屋久島町の捕獲頭数表示は、屋久島と口永良部島を分けて記載してほしい。</p>	<p>鹿児島県 屋久島町</p>	<p>①引き続き、助成金を活用し、担い手育成をしていくために狩猟免許取得助成を行っていく。 また、猟友会等とも連携しながら、新規狩猟者を増やすための方策を検討したい。 ②「搬入」、「それ以外」で標記していく。 ③R2捕獲実績分以降については、屋久島町、口永良部島を分けて作成していく。</p>
<p>(2)鹿児島県のヤクシカ対策</p>	<p>指定管理の事業はいろいろな面で管理監督ができ、PDCAサイクルを回すことができる事業であるので、良かった点、悪かった点をしっかり検討していただきたい。</p>	<p>鹿児島県</p>	<p>合同会議では、実施箇所や捕獲頭数などの実施概要を報告しているところであるが、同事業については、捕獲効率等の解析を行うとともに、事業を進める上での課題など、事業評価に係る部分についても検討しているところである。 今後は、それらについても報告していきたい。</p>
<p>(3)屋久島西部地域におけるヤクシカ管理実施計画</p>	<p>①目標の生息密度が16～20頭/k㎡では高い。植生回復を目標とするのであれば、数頭/k㎡レベルまで低密度化すべき。1k㎡あたり5頭が現実的かと思う。特に初年度に多く捕るべきである。 ②捕獲圧を強化するのであれば、くくり罠も捕獲方策の検討の一つに入れた方がよい。</p>	<p>環境省</p>	<p>①目標密度として、瀬切川右岸の1k㎡当たり5頭を目指すという形としたい。一方で、初年度については、目標密度の実現を目指して可能な限り多くの頭数の捕獲を行うという形にしたい。 ②捕獲状況や個体の反応等を踏まえて適切な手法を採用したい。</p>
<p>(4)ヤクシマザルの捕獲</p>	<p>①ヤクシカの生息密度等についてはある程度動向が分かってきたが、ヤクシマザルもシカとならぶ屋久島の代表的な野生動物であるため、生息頭数の把握など基礎的な情報収集は必要ではないか。 ②サルについても保全と管理の観点からWGの検討項目に含めてはどうか。</p>	<p>環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町</p>	<p>科学委員会やWGでの議論を踏まえて、判断していきたい。例えば、今後管理計画見直しの中で、サルとの適正な共存のような形で、モニタリング計画に、過度に人慣れしたサルの有無を指標として設定するなどして、普及啓発の点を強めていくことは、検討し得ると考える。</p>
<p>議事－3 森林生態系の管理目標について</p>	<p>(1)森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価</p> <p>特になし。</p>		